君津中央病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究に対して診療情報等の提供を実施しております。 この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用又は提供される ことを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

研究課題名	2022 年出生児を対象としたハイリスク新生児医療全国調査
当院の責任者 (所属)	富田 美佳(新生児センター)
他の研究機関及び 各施設の研究責任者	研究代表者 日本小児科学会新生児委員会 委員長 飛彈麻里子
本研究の目的	日本小児科学会新生児委員会では、1990 年から 5 年ごとに超低出生体重児(出生体重 1,000g 未満)の死亡率の調査を実施してきました。これまでの調査では、いずれも日本で出生した超低出生体重児の 90%以上をカバーしており、本研究の結果は日本の周産期医療の水準を示す重要な指標として利用されています。また、超低出生体重児の分娩が予想される際に、ご家族への情報提供にも利用されています。これまでの調査の結果をみると、わが国の超低出生体重児の死亡率は調査のたびに改善しており、国際的にみても極めて治療成績が良いことが分かっています。本研究の目的は、2022 年に出生した超低出生体重児ならびに超早産児の死亡率を明らかにするとともに、過去の調査と比較してどのように変化しているのかを明らかにすること、さらには死亡率に影響を及ぼす要因を検討することです。またわが国の周産期医療の特徴として、超低出生体重児・超早産児の死亡率は諸外国と比べて著しく低い一方、未熟児網膜症や慢性肺疾患といった、早産児特有の合併症の頻度が高いことが分かっています。本研究ではこれらの合併症の頻度についても調査を行い、わが国における現状を把握、諸外国との国際比較を行う際のデータとして使用するとともに、今後のわが国の周産期医療の更なる発展につなげることを目的としています。本研究ではドナーミルクの使用が徐々に普及しつつあります。本研究ではドナーミルクをはじめとする早産児に対する栄養管理が超低出生体重児・超早産児の予後にどのような影響を及ぼしているのか検討することも目的としています。
調査データの 該当期間	2022年1月1日~2022年12月31日
研究の方法 (対象となる方)	該当期間に、出生体重 1,000g 未満で出生した新生児(超低出生体 重児)ならびに在胎 28 週未満で出生した新生児(超早産児)
研究の方法 (使用する情報)	下記に示す項目について、対象の患者の診療録よりデータを抽出させて頂きます。 出生体重、在胎期間、性別、新生児搬送・母体搬送の有無、分娩形式、母体へのステロイド投与の有無、臨床的絨毛膜羊膜炎の有無、妊娠高血圧症候群の有無、児が入院した日齢、NICU 入院中の栄養管理(ドナーミルク使用の有無、静脈栄養の有無、退院時の栄養法包など)、児の合併症(壊死性腸炎、新生児限局性消化管穿孔、慢性肺疾患、未熟児網膜症、嚢胞性脳室周囲白質軟化症、脳室内出血)、児の転帰(自宅退院、転院、死亡)、主たる死亡原因、退院時の体格、在宅医療の有無(氏名、生年月日、住所、電話番号など個人を特定可能な情報は含まれません。)

資料・情報の他機関 への提供	日本小児科学会新生児委員会のデータベースに登録します。
個人情報の取扱い	本研究では、氏名、カルテ番号、生年月日、住所、電話番号などのように、個人を特定可能な情報は抽出の対象に含まれておりません。調査データは日本小児科学会事務局において原則5年間保管させて頂きます。これを延長する場合には、改めて日本小児科学会倫理委員会での承認を必要とします。
本研究の資金源	本研究の資金は「こども家庭科学研究費補助金等成育疾患克服等次世 代育成基盤研究事業 ドナーミルクを必要とする児に普及するために
(利益相反)	必要なエビデンスを構築するための研究」(研究代表者:水野克己) により賄われます。
お問い合わせ先	本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記までご連絡ください。また、本研究の対象となる方やその保護者より、本研究への情報提供の停止を求める旨のお申し出があった場合には適切な措置を行いますので、その場合は当院へのご連絡をお願い致します。 日本小児科学会 新生児委員会 委員長 飛彈 麻里子連絡先 日本小児科学会事務局 〒112-0004 文京区後楽 1-1-5 水道橋外堀通りビル 4 階 TEL: 03-3818-0091 FAX: 03-3816-6036 (当院の連絡先) 君津中央病院 新生児センター 富田美佳 TEL: 0438-36-1071 (代表)
備考	